

【わたしの留学経験】

所属：札幌校言語・社会教育専攻英語教育分野4年

氏名：山田光歩

留学先：アメリカ合衆国アラスカ大学フェアバンクス校

留学期間：2017年8月～2018年5月

○留学で得たもの

フェアバンクスで過ごした9か月間は、たくさんの出会い、発見、吸収で満たされたもので、留学で得たものをあげれば数えきれないほどあります。ここでは「多様性」「文化としての英語」「仲間」の3つに重点をおいて話します。

多様性というのは、つまり視野が広がったということです。アメリカにはさまざまな価値観、考え方、背景を持った人がいることが日常です。比較的歴史が浅く、移民が多いアラスカでは特にそれが強く感じられました。確かに、日本にも色々な考え方はあると思っていたのですが、それでもなお留学前の自分の考え方がいかに狭かったかに気付かされました。日本で言う世間一般の価値観があまりにも当たり前すぎて、自分がそれにとらわれていたことさえにも気づきませんでした。よくないことのように見えても、ある人にとってはそれがよいことであったり、正解はひとつだと思っていたけれど、アプローチを変えればすべてが正解になることに気づいたり…たとえ賛成されなかったとしても、批判はされません。どんな意見であっても受け入れるという文化がありました。そのような中で過ごすうちに、わたしは自分の考えにも自信を持てるようになりました。自分の持っているものを表現すれば、それが何倍もの収穫になって返ってきます。いつの間にかネイティブの友達とそのような会話をすることがひとつの楽しみとなっていました。帰国してからいろんな人に「皮むけたね」「あか抜けたね」と言われましたが、今思えばこれがひとつの理由だったのかな、と思います。

次に文化としての英語です。今まで私の中での英語は日本語に付属しているようなものでした。英語を使おうと思ったら、自分の中にある日本語に見合う英語を探す、というのが普通でした。でも、英語を母国語とする環境の中で過ごすことで、言語は文化の一つで、その文化を共有している人たち同士で使うからこそその言語が生きる、ということに気づきました。挨拶ひとつとってもその文化が日本とは全く違い、単語や文法のみを勉強してきたわたしは最初戸惑いました。しかし、それからネイティブの人同士の会話をよく観察するようになり、彼らが日常会話でどんなやりとりをするのか、どう聞いてどう返すのか、同じ意味でも使うシチュエーションや使う人によって全く違う言葉が使われていることを知ったりする中で、自分はもはや日本語と対して英語を学んでいるのではなく、一人一人に文化として存在している英語を学んでいるのだと気づきました。これは今の帰国後の私の英語学習にも大きく影響していると思います。

最後に仲間です。フェアバンクス的人是さくで親切な人が多く、知らない人に話しかけるといことも珍しい光景ではありません。些細なことから会話が始まり、話の花が咲

く、そのような一期一会の会話が毎日を新鮮にしてくれました。しかし、それ以上に濃密な時間を過ごした友達ができたことがわたしにとっては大きかったです。最初はネイティブばかりの中に入っていくことに不安や恐怖もありましたが、自分が思ったこと、感じていること、大事にしていることを自分のできる限りで表現してみようと挑戦していくうちに、同じような価値観を持っている人が近づいてくるようになりました。そのような人たちとは話せば話すほど、もっと話したいという気持ちがおこり、時間を過ごせば過ごすほど、居心地が良いと感じるようになり、何度会っても、どれだけ一緒にいても、飽きませんでした。彼らとは今も連絡をとっていますし、いつまでも大切にしていきたい宝だと思います。

○これから留学を考えている人へ

これはあくまで自分の意見ですが、なるべく一人でいる時間をなくし、人と話す機会をたくさん作るといいと思います。現地の人と現地の文化の中で話すことは留学先でしかできないことです。わたしはスピーキングを伸ばしたかったので、日中はカフェテリアに行き、夜は何かしらのイベントや友達のお誘いに参加しました。たとえ一人で行ったとしても行った先で友達を見つけ、もしくは新しく友達を作り、ネイティブの人と話す機会を作るようにしました。宿題や自学習のための時間は早朝や夜遅くなど、時間を作ろうと思えば作れます。スピーキングを伸ばしたいと思う人は一人で集中する時間とコミュニケーションを持つ時間のバランスを上手くとれるように時間の使い方を考えていくといいと思います。

最後に、固定観念をなくし、受け口を広くすることです。留学先では新しいことに挑戦したり、様々なイベントに参加する機会がたくさんあると思いますが、「自分には合わないから」「自分は興味がないから」という固定観念のせいで最初からやらないのはもったいないと思います。やってみることで思いがけない発見や学び、出会いがあります。もちろん「失敗したな」「やらなくてよかったかもしれない」と思うこともたくさんありました。でもそれ以上に、挑戦したことで楽しさに気づいたり、自分に合っていると発見したり、素敵な友達に出会えたり、と得たものの方が何倍もあります。日常にそのような機会は数え切れないほど溢れています。わたし自身もまだまだ吸収できたかもしれないと思うことはたくさんあります。だから是非、これから留学に行く人は、受け口を広くしてつかめるだけつかみとって帰ってきてほしいなと思います

留学でどれくらいのもので得れるかは、留学先での過ごし方で大きく左右されると思います。留学の目的や目標は人によって様々なので、「絶対にこれが良い」というものはないと思いますが、常に自分がなぜ留学を決めたのか、何を学ばれたのか、という初めの気持ちを忘れずに過ごしていけたらきっと後悔しない留学経験になると思います。

ハロウィンパーティー



オーロラ



毎週のように一緒に過ごしたメンバー



日本語クラスで授業をさせていただきました

